
また会おう

石田えみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また会おう

【Nコード】

N9733A

【作者名】

石田えみ

【あらすじ】

ごく普通の高校生、絵里が繰り広げる、甘くて切なくておかしい恋愛のお話。

第1話 真夏のジュース事件（前書き）

文章の書き方おかしいかもしれませんが、御了承ください。

第1話 真夏のジュース事件

『…暑い。』

「うん。」

『暑い…。』

—ミーンミーン—

『ありえない。暑い。』

「…うん。」

『暑…』

「うるさい…!…!…」

—ミーンミーン—

蝉がうるさく鳴く7月下旬…。

絵里と希は学校の図書室で、一緒に勉強している。

『希、もう帰ろうよ。こんな暑い中じゃ勉強なんてできない!…!』
「あそ。1人で帰れば??あたしまだ勉強するし。」

『…』

絵里はしょんぼりとして、ケータイをいじり始めた。

「絵里、カチカチ音うるさい。」

絵里はいじけた顔で希を見たあと、ため息をついてケータイを閉じた。

『…何か本読んどく』

そう言って立ち上がった。

絵里と希は、高校2年生。都内の女子校に通っているごく普通の高校生だ。

今は夏休みだけど、希たつての希望で、勉強をするため学校に来ていた。

「えり〜…。年表持ってきて。」

『パシリかよっ（泣）』

絵里は恋愛小説と、分厚い年表を持って席につく。

「ありがと。…あんた恋愛小説なんて読むわけ?？」

『ってゆうか、恋愛小説しか読めないから』

絵里は笑ってそう言うと1ページ目を捲った。

ちょうど絵里たちと同じ年頃の女の子が恋をする話。

絵里は、ドラマやマンガみたいな恋に憧れていた。

—いいなあ。こんな恋愛してみたい…。

絵里はページを捲るスピードが段々遅くなってきた。

「……………り！！…り！！えり！！！！」

『…へっ???』

「もう、何寝てるの。もう12時だよ！！」

『あ、2時間も寝てたんだ…（汗）』

「ま、絵里が寝てるほうが静かで良かったケドね」

『何それ！！』

絵里と希は、笑い合いながら図書室をあとにした。

絵里は、眠りながら不思議な夢を見ていた。知らない男の子と、手を繋いで歩く夢。そして、なぜかヨーロッパの街並み。笑

『……ちよつと欲求不満なのかなあ。』

絵里が希と歩きながら呟いた。

「……何言ってるの??」

『あ、ゴメン。何でもない!!』

絵里はニカツと笑ってごまかした。

「そう??ところでお昼どうする??」

『そっかそんな時間かあ。うん。パスタかあ、ハンバーグかあ』

♪

「バカ。そんな金ないでしょ。ファーストフード行くよ。」

―だったら聞かなきゃいいのにい。

そんなコトを思いながら、絵里は希と近くのハンバーガーショップに行った。

――バシャっ!!

自動ドアから入った瞬間、オレンジジュースが希のブラウスにかかった。

前にいた男の子2人組にぶつかったのだ。

「あ…、汚れちゃった。」

希は絵里を見ながら苦笑いした。

男の子1人が近付いてきた。

『やっべー!!…大丈夫っすか??』

男の子はかなり焦っている様子だった。

「あ、大丈夫ですよ。洗濯すれば落ちますから。」

希は笑顔で答えた。

絵里は隣で男の子を見ていて、不思議な衝動に駆られた。

―長身…、切長の目…、黒髪…、白い肌…。めっちゃめっちゃタイプ…。

笑 それに…どこかで見た顔…。…あ!!!!!!

絵里は、ハッとしたように呟いた。

『…夢の…。』

希と男の子は、絵里のほうを見た。

「どうしたの絵里」

希がうつろな絵里の目を覗きこんだ。でも絵里は、希のほうをチラリとも見ないで、男の子のほうにスタスタと歩いて行った。

『あの…、お名前何ていうんですか?????』

『…俺??? 山本宏樹だけど…』

『…服にジュースかけたおわびに、アドレス教えて下さい!!』

その場が一瞬シーンとした。でも次の瞬間、宏樹がプツと笑った。

『アハハっ!! 何それっ!! 君におわびするの????』

宏樹は笑いが止まらず大爆笑した。

絵里は我に帰り、下を向いて真っ赤になった。

『あ…ははっ…。そうですよね、ゴメンなさい…。』

希は今にも泣きそうな絵里の背中をさすりながら、その場から立ち去ろうとした。

「じゃあ、もう大丈夫ですから。」

そう言って、絵里の手を引いた。

その瞬間…。

『しようよ、メール!!』

宏樹が言った。

絵里はビックリして振り向いた。

『今…、何て…??』

「メール、したい。」

まだ名前も知らない女の子と、メールがしたいと言ってくれた。

宏樹は優しいね…。

これが、あたしと宏樹の始まりだったんだ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9733a/>

また会おう

2011年11月12日13時14分発行